

# 2

## セットアップ

---

本装置のセットアップの方法について説明します。

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 設置と接続(→30ページ) .....       | 本装置の設置から背面のコネクタへの接続まで本体の電源をONにできる状態にするまでの手順について説明しています。 |
| システムのセットアップ(→34ページ) ..... | 本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。               |

# 設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

## 設置

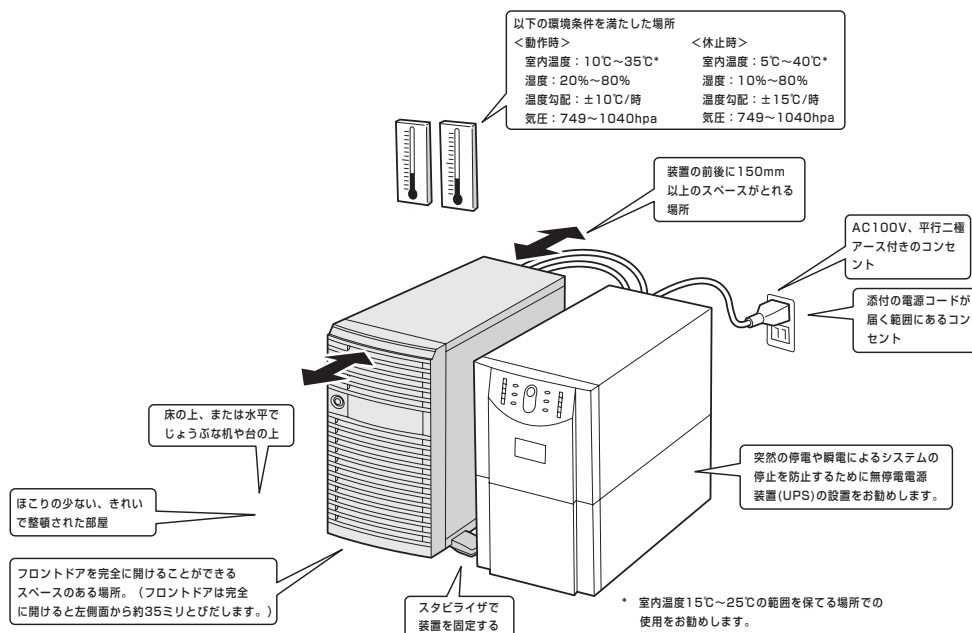
### ⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 2人以下で持ち上げない
- 指定以外の場所に設置しない
- 腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない

本体の設置にふさわしい場所は次のとおりです。



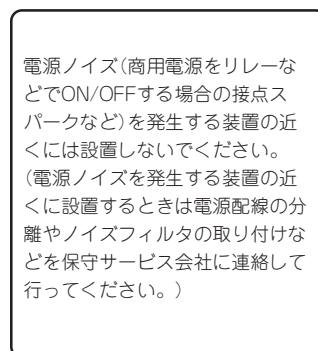
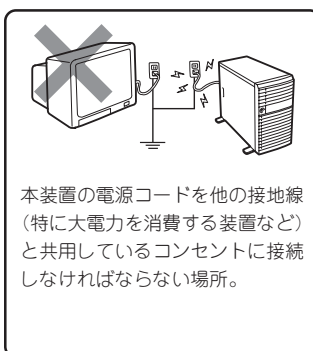
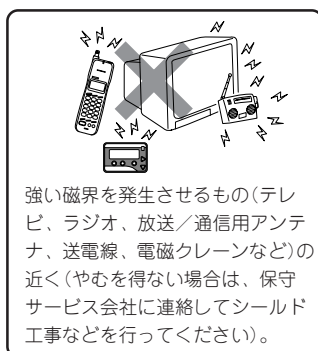
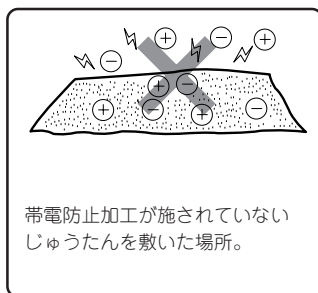
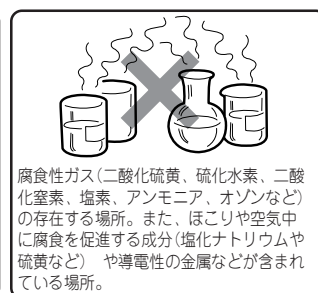
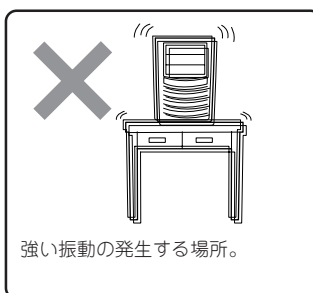
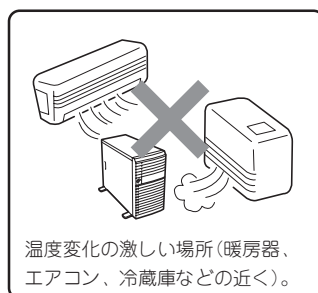
設置場所が決まったら、3人以上で本体の底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。

ラックタイプに変更する場合は別売のラックコンバージョンキットをご使用ください。その際には、ラック用フロントマスクに本装置添付の「ラック用フロントマスクロゴラベル」を貼り付けてください。ラックタイプへの変更手順およびラックへの搭載手順はラックコンバージョンキット添付の説明書を参照してください。



- 装置前面のフロントドアを持って、持ち上げないでください。フロントドアが外れて落下し、装置を破損してしまいます。
- スタビライザを開いて設置場所に固定してください。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本体を設置すると、誤動作の原因となります。



## 接 続

本体の背面にケーブルを接続します。

### 警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

### 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

接続するケーブルは、ネットワークケーブルと添付の電源コードです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。

はじめにネットワークケーブルを背面のLANポートに接続します。オプションのネットワークインタフェースカード(NIC)を本体のPCI拡張スロットに搭載し、複数のネットワークケーブルを接続する場合は、12ページに示すLANポートにのみ接続した状態でセットアップを行い、セットアップ完了後にオプションのNICについて1枚単位でケーブルを接続し、設定してください(設定順序はPCIスロット番号(14ページ)の小さい順です)。



重要

- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。

<次ページに続く>



重要

- 弊社以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 回線に接続する場合は、認定機関に申請済みのボードを使用してください。
- シリアルポートB(COM B)コネクタは管理PCとの通信をするためのインタフェースに設定されています。シリアルポートBコネクタにその他の接続をすると誤動作の原因となります。

# システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER (SE)」JCD-ROMに格納されています。

## セットアップの準備

本装置を設定する前に、本体のLANポート1に割り当てる次の情報を準備してください。10ページの「各部の名称と機能」を参照して、LANポートの位置を確認してください。

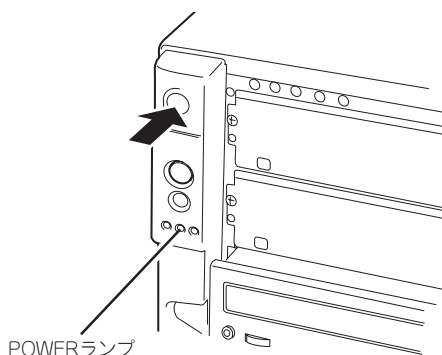
- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレスとマスク値

## 電源のON

システムの電源をONにします。

1. 本体の電源コードがコンセントに接続されていること、および本体のLANポート1がネットワーク環境として使用するHUBに接続されていることを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

本体が起動を開始します。本装置の初回起動は、起動時のピープ音で確認します。ピープ音のパターン(ピープ音を2回長く4回短く)を4回繰り返したら、正常に起動したことになります。



# 初期設定

管理ツール「WebUI」を使用できるようにするために、本装置の初期設定を行います。初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にあるWindowsマシン(Windows Server 2003、またはWindows 2000/XP、Windows NT4.0)と添付の「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMを使用します。



詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照した場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMの¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

1. 任意のWindowsマシンのDVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットする。

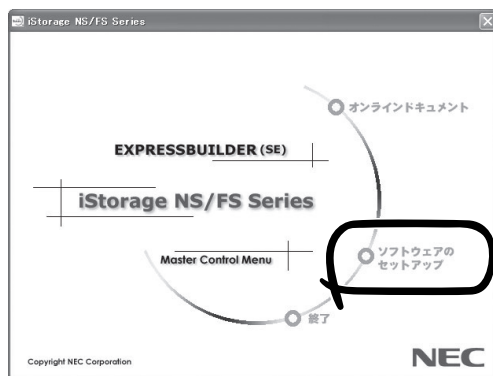
Autorun機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、DVD-ROMドライブ内の「¥MC¥1ST.EXE」を実行してください。

2. [ソフトウェアのセットアップ]をクリックして、表示されたメニューから[初期設定ツール]をクリックする。

初期設定ツールが起動し、エンドユーザーライセンス契約(EULA)の確認画面が表示されます(初回のみ)。

3. EULAを確認の上、同意する場合は[はい]をクリックする。

自動発見ウィンドウが表示されます。



4. [開始]をクリックする。

iStorage NSの一覧が表示されます。



- WebUI起動の表示が「確認中」から「可」または「不可」に変わったら、設定したいiStorage NSを選択し、[設定変更]をクリックする。

設定変更画面が表示されます。

### 🔑 重要

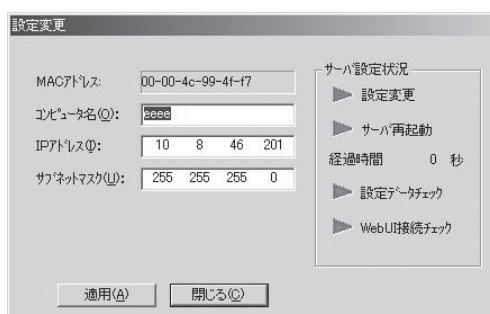
D H C Pサーバが存在する場合、WebUI起動が「可」となり、管理ツール「WebUI」が起動します。「WebUI」を使って設定を変更してください。このとき、通常使用するブラウザの設定を「Internet Explorer 6.0」以降にしておいてください。詳細については、37ページの「WebUIでの設定」を参照してください。



- [コンピュータ名]欄にコンピュータ名を入力する。

### ✓ チェック

ネットワーク上に同一のコンピュータ名を持つマシンが存在すると、設定変更後の再起動ができなくなります。コンピュータ名が重複していないことを確認してください。



- [IPアドレス]欄にIPアドレス、[サブネットマスク]欄にサブネットマスクを入力する。

### 🔑 重要

- IPアドレスの設定を間違えると、設定変更後の再起動や管理ツール「WebUI」からの接続ができない場合があります。IPアドレスに誤りがないことを確認してください。
- 設定するIPアドレス/サブネットマスクは、初期設定ツールを動作させているマシンと同一ネットワークになるように設定してください。

- [適用]をクリックする。
- 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックする。  
サーバ設定の変更が始まり、サーバ設定状況の内容が順次更新されます。
- 完了メッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。  
以上で、本装置の初期設定が完了し、WebUIから管理できる状態になりました。

### 💡 ヒント

初期設定ツールウィンドウで設定したいサーバを選択して[WebUI]をクリックすると、WebUIが起動します。このとき、通常使用するブラウザを「Internet Explorer 6.0」以降に設定しておく必要があります。



# WebUIでの設定

WebUIが起動したら、以下を参照して必要な設定を行います。



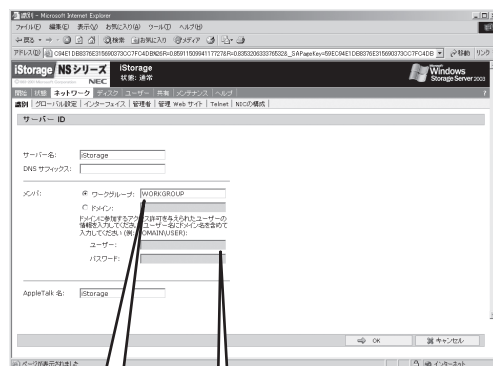
WebUIの起動方法は、28ページの「本装置への接続」を参照してください。

1. WebUIの「ネットワーク」-「識別」の画面を開き、以下を参照して必要な設定を行う。  
初期設定ツールで初期設定を行っていない場合は、「サーバー名」を設定してください。

ワークグループに参加させる場合は、「ワークグループ」を選択し、本装置を参加させるワークグループ名に変更します。

ドメインに参加させる場合は、「ドメイン」を選択し、ドメインコントローラに登録されている「ドメイン名」、「ユーザー名」および「パスワード」を設定し、[OK]をクリックします。

入力したドメイン名、ユーザー名が確認される（環境により10数分かかります）と再起動の画面が表示されます。

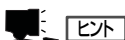


☒ ワークグループ: WORKGROUP  
☐ ドメイン:

ユーザー: DOMAIN#USER  
パスワード: \*\*\*\*\*

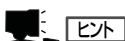
## 重要

ドメインに参加させる場合、「ユーザー名」には必ず「ドメイン名¥」を先頭につけて「ドメイン名¥ユーザー名」と入力してください。



初期状態では、Workgroupというワークグループのメンバーに設定されています。

2. 「AppleTalk名」に設定した本装置のコンピュータ名と同じ名前を入力する。



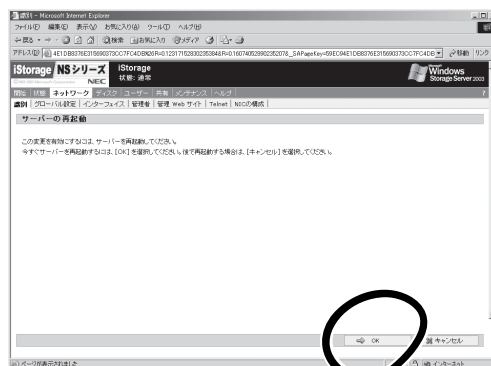
サーバー名とAppleTalk名は合わせておくと便利です。

3. [OK]をクリックして再起動する。

再起動が完了すると、ドメインまたはワークグループへの参加が完了します。

右の画面が表示されない場合は、次の手順を行ってください。

一度ブラウザを終了し、WebUIを再起動してください。それでもアクセスできない場合には、本体のPOWERスイッチを押して終了後、電源を入れ直してください。詳細は1章の「本製品について」の「強制電源OFF」や「POWERスイッチー電源のON/OFFー」を参照ください。



## その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよび4章を参照して、必要なセットアップを行ってください。本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Web-based Promise Array Manager
- エクスプレス通報サービス

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップはEXPRESSBUILDER(SE)CD-ROMにある「オフライン保守ユーティリティ」を使用します。オフライン保守ユーティリティの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、4章を参照してください。



- ドメイン環境で、NFS (UNIX) 接続を利用する場合、ドメインコントローラに Services for UNIX をインストールする必要があります。詳細については管理者ガイドを参照してください。
- Web-based Promise Array Manager を使ってディスクアレイコントローラや接続されているハードディスクドライブ (アレイディスク) を管理するために詳細な設定をしてください。詳しくは、4章で説明しています。
- iStorage NS ソフトウェアを再インストールする場合は172ページを参照してください。

# BIOS設定の注意点

通常、BIOSの設定を変更する必要はありませんが、以下の点を確認してください。

- コンソールリダイレクションの設定
- デバイスのブート順の設定

BIOSの設定は、ハイパーターミナルを使って接続した管理PC上から次の手順で確認・修正ができます。詳しくは6章または付録Bで説明しています。

1. 6章の「システムBIOSコンフィグレーション」または付録Bを参照してシステムBIOS SETUPユーティリティを起動する。

2. 「Advanced」→「I/O Device Configuration」メニューを選択し、以下のように設定されていることを確認する。

[Serial Port B]:	Enabled
[Base I/O Address]:	2F8
[Interrupt]:	IRQ3
[USB BIOS Legacy Support]:	Disabled

3. 「Server」→「Console Redirection」メニューを選択し、以下のように設定されていることを確認する。

[BIOS Redirection Port]:	Serial Port B
[Baud Rate]:	19.2k
[Flow Control]:	Xon/Xoff
[Terminal Type]:	PC ANSI

4. 「Boot」メニューを選択し、以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。

1. [DVD-ROM Drive]
2. [Removable Devices]
3. [Hard Drive]
4. [IBA GE Slot 0018 v1109]

上記の順でなかった場合は設定を変更してください。

5. 内容を保存してシステムBIOS SETUPユーティリティを終了する。

以上で完了です。

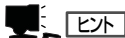
# オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていないので、ご使用前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

1. WebUIを起動し[メンテナンス]をクリックする。
2. [リモートデスクトップ]をクリックする。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体のDVD-ROMドライブにセットする。
4. リモートデスクトップ内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアのマニュアルに従ってください。



## ヒント

Autorun機能でセットアッププログラムが起動するオプションソフトウェアについては、リモートデスクトップ上では自動起動しませんので、インストールディスクの中の「autorun.inf」の中に記載されているセットアッププログラムを実行してください。



## 重要

オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。

～ Memo ～